



研究者名※	押田 昊子	学位※	文学修士
所属※	文学部 英文学科	職名※	助教
連絡先	@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/		
研究分野※	人文学 文学 英米・英語圏文学		
研究キーワード※	英文学		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴			

研究領域	(SDGs)
研究テーマ※	ヴァージニア・ウルフの作品および戦間期のイギリス文学における《布地》と《手芸》の表現について
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p><b>【研究の背景・目的・内容】</b></p> <p>ヴァージニア・ウルフ（1882-1941）の作品を中心に、戦間期の英語圏文学における日常（ordinary）の営みや手仕事（handicraft）のはたらきを、《布地》と《手芸》の表現を通じて考察する。</p> <p>とくに、モダニズム文学としてのウルフ作品におけるファッションやモードに関するこれまでの議論を展開し、布地のもたらず手触りや、テキスタイル・デザインにおけるパターンの効果、日常における手仕事という観点まで、広く検証を進めることを目的とする。</p>
本研究関連 特許・論文等	<p>&lt;査読有り&gt;</p> <p>押田昊子, 「『灯台へ』におけるラムジー夫人のショールのはたらき」, テクスト研究学会『テキスト研究』, 第17号, pp.23-42, 2021年3月発行.</p> <p>&lt;査読無し&gt;</p> <p>押田昊子, 「衣服から編地へ: ヴァージニア・ウルフの作品における衣裳の表現とその展開」, 日本女子大学『日本女子大学大学院文学研究科 紀要』, 第26号, pp.1-18, 2020年3月.</p> <p>押田昊子, 「ヴァージニア・ウルフ『船出』(1915)における言葉と手芸」, 日本女子大学英語英文学会『英米文学研究』, 第56号, pp.57-72, 2021年3月発行.</p> <p>押田昊子, 「「ブランケットのような過去」——ジーン・リース『おはよう、真夜中』と布地のイメージ」, 日本女子大学英語英文学会『英米文学研究』, 第58号, *2023年3月発行予定.</p>
共同研究・外部機関 との連携への期待	